

# スマートフォンを用いた音読指導の試み

野本 尚美・平塚紘一郎

(2020年2月28日受理)

## Experimental Study on Read-Aloud Instruction using Smartphones

Naomi NOMOTO・Kouichirou HIRATSUKA

要旨：本研究ではスマートフォンを用いた個別音読指導を行うことで、学習者の音読に対する意識がどのように変化するかを調査した。学習者自身が教科書の英文を音読している様子をスマートフォンのカメラを用いて撮影させ、その動画をLMS (Moodle) へ提出させた。その後教員が動画をチェックし個別にフィードバックを書き込むという指導を半期実施した。結果として英語を声に出して読むことについて好意的に捉える学習者の割合が増加した。

Key words：英語教育 音読指導 個別発音指導 スマートフォン LMS

### 1. はじめに

英語の音読活動は授業の中で一般的によく行われる活動の一つである。中学3年生1003名を対象として行われた『中3生の英語学習に関する調査』（ベネッセ教育総合研究所、2018）によれば、授業の中での活動として「教科書本文の音読」は「よくしている」(57.7%)と「ときどきしている」(29.3%)との回答を合わせると87.0%に上り、最も頻繁に行われている活動であることが明らかとなった<sup>1)</sup>。

しかし一方で、人前で英語を声に出して読むことに対して不安を感じる学習者も多く存在している。竹内(2018)はいわゆる「音読不安」に対処するための方策として、教師と生徒もしくは生徒間でのラポール(親和性)を形成することや、他の学習者と比べるのではなく本人の過去のパフォーマンスと比べてその伸びを評価し、自己効力感を高める指導が必要であると述べている<sup>2)</sup>。また飯野(2003)も音読指導を成功させるための条件として生徒同士、教師と生徒間で「自分が発した英語は周囲の人にマイナス評価されない」という信頼関係を構築することが重要であると述べている<sup>3)</sup>。

学習者の音読活動について個別に評価するために

は、クラス全体に対する画一的な発音指導や学習者同士でのペア音読活動だけではなく、教師が個々の音読について丁寧に指導する必要がある。しかし限られた授業時間の中で一人ひとりの音読をチェックすることは極めて困難であるため、本研究では学習者がスマートフォンを用いて撮影した音読の動画をLMSへ提出させる指導を試みた。

### 2. 研究内容

#### (1) 対象となる学習者と授業デザイン

本研究の対象は教養科目「英語」を受講した非英語専攻の短期大学生55名である。授業の中で発音指導を行う時間を確保するため、あらかじめ担当教員による予習用動画を作成し、授業の前に視聴するよう学習者に促した<sup>4)</sup>。その結果、授業時間においてこれまで単語や文法の説明に費やしていた時間が大幅に短縮され、発音指導を行うための時間を設けることができた。授業における発音指導として、単語や熟語の読み方、教科書本文の読み方、また文章中で特定の単語の末尾と直後の単語の先頭の音が連結して起こる変化などについて解説や発音練習を行った。

(2) 手順

学生が音読動画と感想をMoodleへ提出する手順について述べる。まず、教員がMoodle上に動画および感想の提出場所を作成する。本研究ではMoodleの標準モジュールである「課題」モジュールを使用した。このモジュールではオンラインでテキストやファイルを提出でき、教員が採点やフィードバックを行うことができる。また、テキストや文書などのファイルの他に、スマートフォン（AndroidおよびiPhone）のカメラで撮影した動画ファイルを提出できるようになっている。本研究では感想を入力するための「オンラインテキスト」と、動画を提出するための「ファイル」を同時に提出できるように設定した。

次に、学生が音読動画および感想をMoodleへ提出する。学生はスマートフォンでMoodleにログインして授業のコースを開いたのち、課題の提出場所を開く。図1に示すような画面となり、「課題を提出する」というボタンをタップする。Androidはオンラインテキスト部分のカメラアイコンを、iPhoneはファイル提出部分のファイル追加アイコンをそれぞれタップし、手順を進めていくとスマートフォンに内蔵されたカメラが起動し、動画の撮影が行えるようになる。学生はカメラの録画ボタンをタップし、自身が音読している様子を撮影する。撮影した動画はすぐにプレビューすることができ、撮影し直

すことができる。撮影が完了したらその動画ファイルを提出する。また、オンラインテキストに音読した感想を記入する。

教員がフィードバックを行う手順について述べる。教員がMoodleに提出された動画と感想を確認し、フィードバックを行う。図2に示すように学生がMoodleへ提出した音読動画および感想は教員が閲覧することができる。教員は学生一人ひとりの音読動画を再生して学生の発音や音読した感想に対するフィードバックを行う（図3）。教員のフィードバックは学生がMoodle上で確認できるようになっており、自身の発音について良い点などを知ることができる。



図2 提出された音読動画の確認画面



図1 音読動画の提出画面



図3 学習者が提出した感想と教員によるフィードバック

(3) フィードバック

学習者によって提出された音読動画について教員が確認し、Moodleにフィードバックを書き込んだ。フィードバックの例は以下の通りである。

- 例1) 個々の単語についても上手に読めていますし、文全体のイントネーションにも注意を払って英語らしい読みができていますね。素晴らしいです。workの発音に気を付けるとさらに良くなります。
- 例2) よく練習してありますね。すらすらと読めていますし、個々の単語についても読み方をしっかり勉強していますね。次回は文と文の間にポーズ(休止)を入れましょう。また、far, marketing, agenciesの発音に気をつけましょう。
- 例3) ひとつひとつの単語の読みをしっかりと勉強して読むことができましたね。イントネーションも自然にできていてとても上手です。素晴らしい!次回はぜひスピードアップまたは暗唱にチャレンジしてみてください。

学習者が音読に対する意欲を失わないよう、できるだけ肯定的なフィードバックを行うよう心掛けた。また次回に音読動画を提出する際の目標となるような改善点を書き込んだ。個々の単語の発音やイントネーションに特に大きな問題がない学習者に対しては、例3のように音読スピードを上げて読んでみることや教科書本文の暗唱を勧めた。

本研究では1レッスンにつき2回の音読動画を提出させ、1回目の動画に対して個別のフィードバックを行った。2019年4月～7月末までに3レッスン分(計6回)の音読動画を提出させた。

### 3. 学習者に対するアンケート調査結果

本研究の実施期間中に3回(4月・6月・8月)、学習者に対して音読動画に関するアンケート調査を実施した。

「英語を声に出して読むのは好きですか」との問いに対し「とても好き」から「とても嫌い」までの5段階での回答を求めた結果、4月当初は半数以上の学習者が「やや嫌い」「とても嫌い」と回答していたのに対し、6月のアンケートでは「とても好き」「まあまあ好き」と回答した学生が増加し、8月には「とても好き」または「まあまあ好き」と

回答した学生が52.7%と半数を超える結果となった(図4)。本実践を通して、英語を声に出して読むことを学習者が好意的に捉えるようになったと考えることができる。

一方、「人前で英語を声に出して読むのは好きですか」との問いに対して、「とても嫌い」または「やや嫌い」と回答した学習者の割合は4月では83.7%、8月では76.4%となり、全体として約7～8割の学習者は人前で英語を読むことに対して消極的な気持ちを持っていることがわかった(図5)。この結果から、他人の前で英語を話すことについて強い抵抗感を持っている学習者もいるということを教員がよく認識し、授業等において英語を話す活動を行う際には学習者の情意面に十分に配慮することが必要であると考えられる。

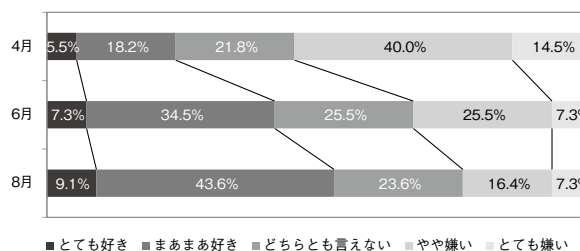


図4 英語を声に出して読むのは好きですか (N=55)

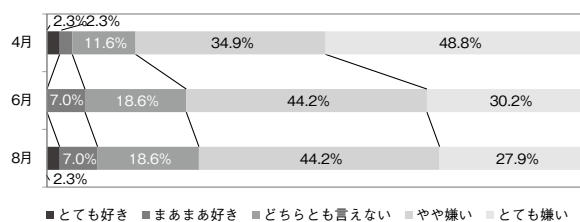


図5 人前で英語を声に出して読むのは好きですか (N=55)

また「音読動画は英語の学習に役立ったと思いますか」との質問に対しては、約9割の学習者が「とても役立った」または「まあまあ役立った」と回答し、「あまり役立たなかった」「全く役立たなかった」と回答した学習者はいなかった(図6)。また「役立った」と考える理由について自由記述式で回答を求めたところ「先生のコメントを見て英語の発音を改善できるから」「マンツーマンのような形で教えてもらって自分の発音を改善できるから」といった発音に関する記述のほかに、「英語のリスニ

ングが聞き取りやすくなった」「音読をすることで文章を覚えることができた」「読むことによって単語をより覚えられた」「英語の苦手意識が少しなくなった」など、発音以外の点においても効果があったとする回答が見られた。これらの結果から、学習者の多くは本研究における音読動画の提出について有意義であると認識していることがわかった。

2003年52巻6号、pp.24-25

- 4) 野本尚美・平塚紘一郎「英語教育のためのビデオ教材に関する実践的研究」『仁愛女子短期大学研究紀要』2019年51号、pp.29-33

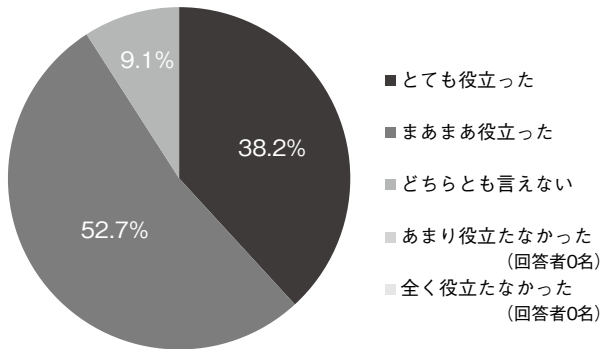


図6 音読動画は英語の学習に役立ったと思いますか (N=55)

#### 4. まとめと今後の課題

学習者自身によって撮影された音読動画を教員が確認するといった個別発音指導を行うことで、英語を声に出して読むことを学習者が肯定的に捉えることができる可能性が示唆された。また音読動画について学習者の多くが英語学習に役立ったと感じていることがわかった。しかし一方で、人前で英語を話すことについては消極的な態度を示す学習者が依然として多いことを踏まえ、教員は学習者の心理的負担を鑑みつつ丁寧な音読指導を行うことが必要であると考えられる。また、一人ひとりに対して個別のフィードバックを返すことには多大な時間と労力を要するため、評価やフィードバックの方法についてどのように効率化を図るべきか今後さらなる検討が必要である。

#### 引用・参考文献

- 1) ベネッセ教育総合研究所「中3生の英語学習に関する調査<2015-2018継続調査>」、(<https://berd.benesse.jp/global/research/detail.php?id=5368> 閲覧日：2020年2月28日)
- 2) 竹内理「再考『音読活動』」『Teaching English Now』、2018年40巻、pp.1-5 (<http://hdl.handle.net/10112/16342> 閲覧日：2020年2月28日)
- 3) 飯野厚「英語が苦手な生徒にこそ音読を！」『英語教育』、